

貫井図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和3年11月5日(金) 午後2時～午後3時30分
- 2 場所 貫井図書館 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 16名 内ガイドヘルパー2名
図書館 5名
(貫井図書館長、館長代理2名、総括学校支援員、スタッフ)
- 4 テーマ 「これからの貫井図書館を考える」
- 5 配付資料 (1) 貫井図書館だより
(2) 美術パスファインダー
(3) 令和2年度下半期～3年度上半期
一般展示まとめ、主な一般向け行事まとめ、
主な児童・青少年向け行事まとめ
(4) 「知ってみよう！体験してみよう！IT技術と視覚障害者の生活」
チラシ
(5) 「秋のおたのしみ会 手話つきおはなし会」チラシ
- 5 次第 (1) 貫井図書館長挨拶
(2) 図書館職員及び参加者自己紹介
(3) 図書館事業説明および懇談
①コロナ禍における図書館サービス
②子供たちや子育て世代へのサービス
③一般、高齢者、障害者サービス
④その他施設に関する事など
(4) 貫井図書館長挨拶

貫井図書館利用者懇談会 会議録

1 貫井図書館長挨拶

本日は図書館利用者懇談会にたくさんのご出席を頂き、ありがとうございます。

練馬区立図書館では読書週間に合わせて、区内12館で利用者の方との懇談会を行っております。今年度は全館統一テーマとして「コロナ禍における図書館サービス」ということで懇談会を行わせていただきます。たくさんのご意見を頂ければと思います。

なお、本日は貫井図書館について懇談して頂く場としております。全館に関わる図書館サービスのお話については、11月20日土曜日午後2時から光が丘図書館で懇談会が行われますので、そちらにご参加頂ければと思います。本日、全館に関わるお話が出た場合は、光が丘図書館に内容を伝えさせていただきます。後日、ホームページで回答させていただきますので、ご

了承ください。また報告書を作成するために記録をとらせて頂きます。

資料のほかにアンケートも配布させていただいておりますので、お帰りの際に回答していただければと思います。また、今年度はコロナウイルスのために、参加者から感染者が出た場合にご連絡ができるようにご連絡先を記入していただく紙も配布しています。ご記入いただけたら、一か月保管させて頂いて適切に処理させていただきますので、よろしく願いいたします。

では、次第に沿って進めさせていただきます。

2 図書館職員紹介および出席者自己紹介

館長、館長代理、総括学校支援員、館長代理(記録担当)

3 図書館事業説明および懇談

(1)「コロナ禍における図書館サービス」◆図書館長より状況報告◆

図書館 昨年は、休館という事態となりましたが、今年度は、予約の貸出返却だけという時期を経まして、徐々に事業を再開してまいりました。現在もまだ、2時間までの滞在時間及び席を減らして、間隔をとっていただいている開館となっております。貸出冊数などのデータを見ますと、ほぼ例年並みに戻ってきています。来館者数で見るとまだ少し少ないですが、ほぼコロナ以前の数字に戻ってきたという状況です。

練馬区は、緊急事態宣言中でも、イベントは中止とはせず、人数を制限して、窓をあけ、検温などの感染予防対策を行って、実施としてきました。本そのものの消毒などの対応としては、返却時にアルコールで拭くようにしておりますが、ページの中までは拭いたりできませんので、現在は「本を読む前とあとに手を洗ってください」と、お願いをしております。

貫井図書館は、図書除菌機を設置しておりますが、令和2年度一年間で3万8000回、一日当たり150回も使用されました。今年の10月からは、全館に設置されるようになりました。

書架に入れず、予約の貸出返却だけの時期には、昨年と同様、おたのしみ袋という形で、貸出を行いました。これは、スタッフが選んだ3冊を袋に入れて貸出をするというもので、大人用には87袋、251冊貸出しました。児童向けには年齢別に用意し、合計302袋、906冊を貸出し、大変好評でした。

貫井図書館は、窓が少ない構造上、空調の換気を最大にしております。ご来館の利用者の皆様も、大変不安に感じられている方から、マスクもしていただけないという方まで様々です。このような図書館のコロナに対する取り組みについて、ご意見をいただければと思います。

利用者 音訳ボランティアの団体です。対面朗読について、会の中で意見がありました。緊急事態宣言中で制限がある間、視聴覚室を利用できたのはとてもよかったです。通常は狭い部屋なので、広いということが良かった、安心しましたという声があり

ました。また、宣言が解除になったとしてもパーティションや消毒は続けてほしいとの意見がでました。

図書館 対面朗読室は狭いので視聴覚室が空いているときは使うということになりました。回数が減ったことは大変申し訳ないです。今は光が丘図書館が、空気清浄機を設置してくれたので若干環境はよくなったかと思います。

利用者 対面朗読を区民センターの部屋を借りて実施したが、これからも貫井図書館の視聴覚室は一つしかなく、区民センターやサンライフにはたくさん部屋があるので、対面朗読だけでなく、貫井図書館の視聴覚室としての機能を同じ区の施設なのだからうまく使えるよう努力してほしい。

図書館 対面朗読室が狭いのでコロナ禍における感染予防として、光が丘図書館がケアセンターへのお部屋の手続きをいたしました。他の施設のお部屋の件については、こちらで検討課題とさせていただきます。

利用者 ブックスタートの会です。可能な限りイベントを開くということで、私たちも図書館の協力を得て、シートを敷いて間隔をあけたり、外で検温するなどして、参加者を迎えました。飛沫の関係もあり、手遊びは省略して、時間も30分から15分と短くして実施しました。生まれたばかりの赤ちゃんの子育ては特に大変で、出かけられないことでのストレスがあり、密室の中の子育てをしているお母さまたちにとっては癒しになったのではないかと思います。時間は短くはなったが、継続して開催できたことはよかったと思います。

図書館 気を配りながらも無事に開催出来たことをありがたく思っております。

利用者 図書館をここ何年か見えていますと、最大限の努力をしてくれていると思います。本当によく努力してくださったと思います。これからのことを思うと、スマホなど技術関係とは無関係とはいかないだろうと思います。スマホで遠い人とでも話ができるし、いろいろ情報交換などができる、そういう中で区立図書館の役割がどういうふうになっていくのかと考えます。

図書館 多くの方にこの場に来ていただいていたの講演会の開催は、これからも難しいかと思っています。この1年は悩みながらやってきたところです。6月にちひろ美術館と共催で、赤羽末吉さんに関する講演会を石神井図書館で実施し、それを貫井図書館、南田中図書館をつなげ、3か所でオンラインの同時講演を実施しました。一か所でたくさんの人を集めることができませんが、オンラインでつなぐことで、たくさんの方に同じ講演会を楽しんでいただけたということができました。内部ではいろいろな課題もありましたが、無事実施することができ、自信にもつながりました。その後、Zoomやオンラインでつなげて、多くの方が参加できるようなイベントが主流となってきました。家からパソコンで参加する、会場に行って参加するなど、色々な選択肢があるイベントは今後考えていく必要があります。現在勉強中でございます。

利用者 読書バリアフリー法という法律ができました。目の不自由な人だけでなく、文字

を読むのが難しい子供がいます。そういう子供は図書館にアクセスしにくい、そういう子供達も利用できる音声文庫などがあるといいと思います。対面で読む幸せもあるが、読むのは大変だけれど耳から聞いてお話を知るということも大切だと思うので、よろしく願いいたします。

図書館 貫井図書館だけではお返事が難しい問題です。練馬区はまだ利用できる要件が限られています。ご意見として光が丘に伝えます。ディスレクシアの人のためには、貫井図書館にはリーディングトラックを用意しており、カウンターで案内できます。

(2) 子どもたちや子育て世代へのサービス◆図書館長より関連の図書館事業報告◆

図書館 貫井図書館では、定番のよみきかせ、おはなし会、赤ちゃん向けよみきかせを行っています。その他託児サービス、貫井子ども家庭支援センターさんとの連携による事業を行って、子育て家庭への支援に力を入れています。昨年度からは、中村児童館さんとも連携し、相互に出張事業を実施しております。平成 29 年度からは、図書館を使った調べる学習コンクールにも、取り組んでおります。昨年は作品が少なかったですが、今年度はまた例年のようにたくさんのご応募をいただきました。夏休みには、関連するイベントをいくつか実施し、子供達の調べるということへの意識を持ってもらえるようにしております。先日、審査会を行って、入賞作品を選考いたしました。今後とも子供たちへの読書活動推進のため、図書館にできることにたくさん取り組んでいきたいと思っています。

その他、お手元の事業の一覧にもありますとおり、出張しておはなし会も行っていますが、コロナ禍で中止となったものも多くあります。ここ数年の人気の子ども向けのイベントとしては、元理化学研究所職員の方に講師になっていただいている科学実験教室があります。毎回とても楽しいと好評です。

中高生などの世代にも、図書館をもっと利用していただきたいと、例年いろいろな事業を企画しています。今年度は、「出版社トップが語るここだけの話 出版業界で働くには何が必要か」というテーマで、青少年向けのトークイベントを実施しました。

では、これらの貫井図書館の児童・青少年向けの事業などに関しまして、ご意見をいただきましたら、と思います。

利用者 学校図書館との関係を教えてほしい。学校図書館で図書館の使い方を学んだ子供達はやがて公共図書館を支える担い手になる。いまいくつかの学校を支援しているということだが、現状を教えてほしい。

図書館 貫井図書館では近隣の6校を支援しています。近隣の富士見中学高等学校とも、団体貸出を中心に連携協力を実施しています。学校への支援は、団体貸し出しをするということだけでなく、支援員が図書館の使い方、参考資料の使い方を指導するなど様々な読書指導を行っています。中学校は小学校に比べると本を読む子と読

まない子との差が激しいです。支援員がいろいろな工夫をして、読書量を増やそうとしています。今年度は、二つの中学校同士で読書会を実施しました。図書委員さんが自分たちで課題図書を選び、話し合いの場も自分たちで進行するというものです。コロナのためZ o o mでの開催になりましたが。微力ですが、子供たちの読書活動を支援していきたいと思っています。

図書館 コロナ禍となり、近隣の障害児保育園への出張読み聞かせが実現していません。そちらにいらっしゃるお子さんの読書はどんな感じでしょうか？

利用者 当園の子供たちは、重症心身障害児ですので、コロナに感染すると重篤化しやすい。医療的ケアをしている専門の保育園です。公共の場で堂々と本を読むのはリスクが高い。園の本も1度読んだら必ず消毒しています。30分に1度は消毒しているので、本に親しむ時間をとるのが難しいですが、出張してもらえる場を貰えるのはありがたいです。図書館にある布の絵本は子供の保育、療育、発達の部分で刺激になります。ボタンに触ったり、布への感触、衣類の着脱の練習にもなる。貸し出してもらえるとありがたいのですが。

図書館 布の絵本製作の団体の方が本日は欠席なので、今の話を聞いたら非常に喜ぶと思います。団体貸出は布の絵本は現在の規則ではできません。個人で借りることは出来ます。今のお話を受けて、図書館として何かできないか考えてみたいと思います。

利用者 布の絵本について。布の絵本は字が無いので字を読めない子でも味わうことができる。布の絵本はどこの国の言葉でも読むことができる。大きな話になるが、外務省が海外の支援物資として扱う、そのもとを練馬が中心になってつくる。簡単なものを学校の授業でも取り入れて作るということが良いのではないかな。光が丘図書館への要求として、しっかり布の絵本を作っている貫井図書館が発火点となり、大きな事業として海外援助として、世界中へ送り、布の絵本を広げて欲しい。

図書館 布の絵本を世界中に、という壮大な話ですが、とにかく光が丘図書館への御意見として報告したいと思います。

(3) 一般、高齢者、障害者サービス◆図書館長より関連の図書館事業報告◆

図書館 現在、情報発信としては「貫井図書館だより」、「美術パスファインダー」などの発行を行っております。地域情報発信として、現在は富士見台商栄会さんのお店を紹介しています。図書館資料の活用としては、令和2年3月に、地域資料『中むらの昔』をデジタル化し、図書館HPからアクセスできるようにいたしました。アクセス数も多く、コロナ禍でデジタルアーカイブ、電子図書館などへの注目度が上がっている中で、昨年度の事業の中では大きなものとなりました。美術関連資料としては、馬場のぼる展に関連し、ワークショップを美術館と一緒に取り組みました。中村敬老館、街かどケアカフェつじなどへの出張事業も行っています。中村橋地域包括支援センターの方に貫井図書館に来ていただき、高齢者向けの事業を実施

するほか、大活字本収集など高齢者の読書支援活動を行っています。

その他、一般向け事業として、地域の歴史を考える講座、おとなのためのおはなし会、古文書講座などを実施しています。年明けにはバリアフリー映画会を今年度も実施します。ねりまおなはしの会さんとコラボイベントを、手話通訳付きのもと実施します。障害者サービスも貫井図書館の柱としています。

対面朗読について、令和2年度は598回実施しました。区内で1番多い図書館です。コロナによって半分ほどになっていますが、感染予防をしながら実施できたのもボランティアの方のご協力のおかげと思っています。こういったサービスについて、ご意見を伺いたいと思います。

図書館 「貫井図書館だより」については、町会には回覧板に入れていただくようお願いしています。貫井町会、富士見台町会、向山西町会の3つの町会に協力を依頼しています。

利用者 図書館がこんなにも努力をしていることを知らないでいました。本日参加したことによって図書館の取り組みを知ることができました。区民の方々にも、もっと知って欲しいと思いますので、遠慮せず声をかけてほしいと思います。

図書館 心強いお話をありがとうございます。

利用者 コロナ禍以前は、障害の重い方も使わせていただきました。ありがとうございます。突然大声を発してしまいご迷惑をかけることもあり、申し訳ないです。毎日ではないですが、今後も利用させていただきたいなと思っています。ただコロナで区の施設としてマスクの着用の協力を求めています。障害の重い方は、マスクをすることにより呼吸困難になる人もいます。そういう方は利用する際はお声掛けさせていただくこともあるかと思います。ご配慮いただきたいです。利用する際についてのご提案などしていただけたらと思います。

図書館 マスクについては体調が悪い方や、出来ない人にはご無理はお願いしていません。そうではない方にはつけていただくようお願いしています。区の障害者支援センターが作成した、マスクを着けられない人に着けていただくバッジがあるので、館内でポスターを掲示して皆様に周知しています。大きな声が出てしまう方もいるとの事ですが、お子様も静かにしていただけないということもありますので、相互にご理解いただいているところです。それで敷居を高くされないように願っています。

(4) その他施設に関する事など

利用者 美術館の改修についてですが、去年は延期ということでしたが、新しい見通しはどうなっていますか。

美術館 2025年工事開始の予定です。令和7年です。延床面積も大きくなります。12月に議会で承認を経て、区のホームページで基本構想素案が発表される予定です。細かい設計についてはまだですが、設計については図書館さんとも区として話し合

いながら行います。大体の構想は図書館とともに区と話しています。25年から2年くらいかかるのではないかなという予定で進行しております。

利用者 2025年着工で2年間は、貫井図書館は使えないのですか。練馬図書館と一緒の生涯学習センターも改修という話もありますが、どちらが先ですか。

美術館 どちらが先かということは、今の時点では明確でないです。

利用者 貫井図書館と練馬図書館が、同時に使えなくなることはありますか。

図書館 同時はないと思います。

利用者 施設の問題ですが、私は前から貫井図書館自体が美術館に同居していることがそもそも論外と思っています。区として福祉行政を大きな柱としているが、福祉とともに、教育と文化を福祉とともに強くするという事は、区民にとって、将来に向けて大きな課題です。練馬区がどういう町になったらいいか。区の企画部に意見を言ってきたが、人口73万の練馬区における図書館の姿は、欧米先進国と比べると劣悪です。日本の図書館関係者はよく知らないのかもしれないが、ニューヨーク中央図書館と比べると全然考え方が違う。都の中央図書館が千代田区の日比谷図書館を手放してしまうような、ビジネス図書館として力を入れる必要があったのに、考えない都そのものが、図書館業務に関して後ろ向きである。埼玉県や横浜市が力を入れている。そういう中で、練馬区は頑張っって日本一の図書館を目指して欲しい。

練馬区の企画部長に伝えたいと思っているが、区の債権を発行して大きな予算措置をとるようにしてもらいたい。

図書館 お話がとても大きくなってきたので、直接区へお話いただけますか。前段については、光が丘へ報告しておきます。

ご意見がだいぶ出尽くしてきたようですが、他にご意見ありませんか。ではこちらから今後のイベントの事で少しお話をします。

イベントがコロナにより、リモートによるものが急速に増えています。図書館でもいくつかオンラインのイベントを実施しました。予想よりも違和感なくでき、アンケート結果からもそのような感想がありました。現場から生中継する。さらにそれを録画編集したものを上映することもいたしました。このようなやり方で、1回に参加する人の人数制限をしながら、たくさんの方に参加してもらえることができました。あるいは施設間をつなげてでもできますので、図書館としても取り入れていきたいと考えております。

この後にも、今月は高齢者や、家族に高齢者がいる方に在宅療養のイベントを練馬区の地域医療課と協力して、リモートで実施します。先日は地域包括センターの職員の方に来ていただき、上映会終了後質問に答えてもらうといったことも行いました。施設間の連携をとってイベントを実施することができました。このようなリモート系イベントなどへの質問がありましたら、どうぞ。

利用者 地域包括センターです。上映会に参加しましたが、違和感なく参加できて、お徳感があります。いままではその場限りでしたが、編集も出来るという事でプラスに

なります。リモート講演会は今年度からですか。

図書館 今年度からです。がんのイベントや、在宅療養についてなど、今年度実施しました。在宅療養は、すぐに枠がうまるような関心度の高いものでしたので、他の施設と分散して実施することにより、多くの人を受け入れることができました。

利用者 今年始まり、地域包括の職員が高齢者の支援という立場でしっかり講演会を行っているということで、連携が取れたと思います。とてもいいと思う。

利用者 オンラインの中継などはコロナで唯一良くなった点かと思います。サテライト中継、ビデオ上映会の話は聞きましたが、ビデオ上映会はその日一日限りなのか。アーカイブ作ったらどうでしょうか。家のPCでいつでも見られるというような映像の蓄積を、他にも作家が来て講演したなどでも、行ったらどうでしょうか。蓄積があれば、講演会を見逃したときにそこにアクセスして見られるのではないのでしょうか。いつでも見られるということは有難い。蓄積があれば、体験型は仕方ないが講演会の見逃しは減るのではと思います。

図書館 ネックな点があります、医療系はその時点でのお話ということで、その場限りでという制限がついてしまいます。おはなし会の配信などは、YouTubeなどでの実施はすることは簡単ですが、自治体の方針や、著作権の問題もあります。公衆送信という問題があります。誰でも見られる、ダウンロードもできるということであれば、著作権の問題をクリアする必要があります。図書館界全体の話となってしまいますが。一部、私もせっかくなので、配信をするのはどうですかと、講師に話したこともありますが、あとあとに残ることを望まない方もいます。練馬区も読み聞かせ、パネルシアターも始めています。まだまだハードルは高いですが、考えてまいりたいと思います。

そろそろ時間となりました。アンケート、連絡先の記入お願いいたします。

それでは、これで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。今後とも貫井図書館をどうぞよろしくお願いいたします。